

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2009

課題番号：20700226

研究課題名 (和文) 米国における近代学校図書館の成立に関する研究

研究課題名 (英文) Study of the establishment of the school library in the United States

研究代表者

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

同志社大学・社会学部・講師

研究者番号：80411057

研究成果の概要 (和文)：

本研究では、米国における近代学校図書館の成立、具体的には19世紀末から20世紀初頭の米国の学校図書館の理論的変遷と実践の展開について、当時の米国で出版されていた図書と、教育と図書館に関する主な雑誌の記事を用いて検証した。しかし、記録と記述が決定的に欠如しており、それは学校図書館の理論的成立を19世紀末から20世紀初頭の学校図書館史の初期に求めることはできない可能性を示唆していると考えられた。むしろ初期には、ライブラリアンの専門職確立の運動とその配置の広まり、そして彼らによる学校図書館運営の実践が、それらにまつわる言説はたまた理論に先行していたのではないかと思われた。

研究成果の概要 (英文)：

In this study, the researcher tries to illustrate the establishment of the modern school library in the United States of America, especially the process of the theoretical development and the improvement of school library practices from the end of the 19th century to the beginning of the 20th century, by examining books and articles in the major journals/magazines in the education and library field. However, since there was a critical lack of documents and descriptions, it probably implies that it is impossible to seek the point of the theoretical establishment of the school library in the period between the end of the 19th century and early 20th century, which is the very early period of the school library history. Rather, in the early period, the movement of the establishment of the librarian profession along with the spread of the placement of school librarians, and the practices of the school library administration might take lead before the statements and theories arrive in the literature.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：学校図書館学；図書館史

科研費の分科・細目：図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：学校図書館史；米国教育史；ジョン・デューイ（John Dewey）；メルヴィル・デューイ（Melvil Dewey）

1. 研究開始当初の背景

米国の学校図書館の成立については、実証的歴史研究は、過去には日本においてだけでなく国際的にもほとんど行なわれていない。特に当時の教育学と学校図書館の誕生の関係については、歴史研究に基づいているわけではない一般的理解がそこかしこに記述されているばかりである。本研究では、日米で当時の図書および雑誌にできる限り広範に網羅的にあたり、米国における近代学校図書館の成立について歴史的に明らかにするための基礎資料を入手・整理し、分析することとした。

米国では学校図書館史研究はある州や地域を取り上げてのものがほとんどであり（Jenkins, Christine A. “The History of Youth Services Librarianship: A Review of the Research Literature,” *Libraries and Culture*. Vol. 35, No. 1, Winter 2000, p. 103-140.），簡単な通史を除くと、全国的な動きを対象とした研究は多くない。そもそも、歴史研究が、米国の学校図書館研究にはきわめて少ない（Wiegand, Wayne A. “The Rich Potential of American Public School Library History: Research Needs and Opportunities for Historians of Education and Librarianship,” *Libraries and the Cultural Records*. Vol. 42, No. 1, Winter 2007, p. 57-74）。そうした中で、1998年に出された Latrobe, Kathy H. *The Emerging School Library Media Center: Historical Issues and Perspectives*, Englewood, CO: Libraries Unlimited, 1998, 288p. は、複数の視点から米国の学校図書館の全国的な歴史を検証しており、その歴史の初期についても多くの章で言及がある。しかし基本的に、史料を網羅的に丹念に検討した実証的研究とは言いがたい。日本で書かれてきた米国学校図書館史も、その多くが米国で発表された論考に拠っており、広範にわたって収集した史料をオリジナルな視点から分析した、特に米国における近代学校図書館の成立に関する実証的研究は皆無である。

本研究はまた、日本の学校図書館史研究の進展を目指すということを視野に入れていた。20世紀半ばまでの米国の学校図書館史について検証するということは、占領下の日本において伝えられ受容されようとした米国の学校図書館について理解を深めることを意味する。筆者は、博士論文『占領下日本における学校図書館改革：初期から中期の日米の協働的分析』（2007年3月、東京大学大学院教育学研究科提出。）の中で、「1940年代の米国の学校図書館」について整理した。第二

次世界大戦後の占領下日本において、米人のCIE（Civil Information and Education Section, GHQ/SCAP）の教育課係官らによって、当時の米国の学校図書館の理論や実践を背景とした指示・指導があり、当時の米国で出版されていた学校図書館に関する図書その他の資料がもたらされ、日本側の関係者に参照にされていたからである。しかし、博士論文では、占領下日本における学校図書館改革の着手の経緯と改革の進展を明らかにすることが中心となり、十分に米国の学校図書館史との関連を検討することができなかった。そこで、戦後日本に移入されようとした米国の学校図書館の出自を求めるという意味でも、20世紀半ばまでの米国学校図書館の理論と実践の発展に関する実証的な基礎研究に着手することとした。

2. 研究の目的

本研究では、米国における近代学校図書館の成立の構造および背景を明らかにすることを旨とした。特に、その初期の理論的変遷と実践の展開について、文献に基づき検証することとした。

20世紀の産物と言われる学校図書館は、19世紀末から20世紀初頭の新教育運動、特にその時期の米国の進歩主義教育の運動の中で生まれ、その理論と実践が発展したとされる。またその始点の象徴として、しばしば、ジョン・デューイ（John Dewey）が1899年に著した *The School and Society* の中で、学校の中心には図書室があるべきという理念を示したことがあげられてきた。しかし、そうした曖昧さの残る指摘を超え、時代背景を十分に探った米国学校図書館成立史の実証的研究は、これまで、日本だけでなく、国際的に見ても不十分であった。

具体的には、次の2つの視点で、19世紀末から20世紀前半期の米国の学校図書館史を検討した。1) 19世紀末から20世紀初頭の米国教育界の動向、特にJ. デューイらによって主導された進歩主義教育運動が、学校図書館の誕生とその初期の発展に与えた影響を実証的な方法で再検討すること；2) 米国において、20世紀前半期に、近代の図書館の論理が学校図書館に適用され、図書館の一館種として学校図書館が考えられるようになった経緯を探ること、である。

3. 研究の方法

日本と米国において、19世紀後半期から20世紀前半期までの米国の教育界と図書館界と学校図書館の関係を示すだろう資料を収集した。それは主に次の2つの資料群であ

る。

1) 当時の米国で発行されていた、

「instruction in the use of books and libraries」を主題とする、主として図書。

2) 19世紀後半期(資料にあたったうえで、1870年代以降にしぼられた)から20世紀初頭のアメリカの教育と図書館についての主な雑誌6誌中の、初等・中等教育の学校の図書館に言及した文献。6誌とは、*National Education Association Journal of Proceedings and Addresses*; *Education: An International Magazine*; *English Journal of Education*についての3誌、そして *A. L. A. Bulletin*; *Library Journal*; *Public Libraries* の図書館についての3誌である。

特に雑誌記事については、データベースが存在しないだけでなく、索引が不十分であったため、その収集と整理には多くの時間が必要であった。しかし当時の図書、雑誌記事を網羅的に収集、検討した学校図書館史研究は過去には米国でも発表されておらず、今回、学校図書館史研究に新たな知見をもたらす可能性のある基礎資料を入手し整理することができたとと言える。

4. 研究成果

先行研究と本研究の知見に基づき、はじめに19世紀末から20世紀初頭の学校図書館誕生史を簡単にまとめると、次のようになる。

1880年代後半には、学校教育における図書館の重要性が、いくらか漠然としてはいたものの、主張されはじめていた。そして、まずは学校と公共図書館の関係が定期的に議論されるようになった。続いて、メルヴィル・デューイ(Melvil Dewey)をはじめとして、公共図書館関係者の間で子どもたちや学校に対する図書館サービスに強い関心がもたれるようになり、1896年、全米教育協会(National Education Association: NEA)に図書館部会(Library Section)の設置が実現した。また、19世紀末から20世紀に入るころには、ライブラリアンによって、ハイスクールでの組織化された図書館の利用法に関する指導(「library instruction」)が試行錯誤されはじめていた。1910年代になると、師範学校とハイスクールの図書館の充実が課題として認識されるようになった。そして同時期、初等・中等教育の学校の図書館に勤務するライブラリアンによる論文発表が増えた。1910年代の半ばに、話題は、学校と図書館の協力から、学校図書館へと移行した。

以上の歴史の概観をふまえ、本研究において資料の分析を行って、より具体的かつ詳細な当時の学校図書館の理論的変遷と実践の

展開を検証し、次のような知見と今後の研究の課題を得ることができた。

- J. デューイが1899年に著した *The School and Society* の中で、学校の中心には図書館があるべきという理念を示したことが、アメリカにおける学校図書館の成立と発展に大きな影響を与えたという過去の一般的な理解にも関わらず、19世紀末から20世紀初頭の教育と図書館についての6つの雑誌には、J. デューイそのほかの教育理論と学校図書館を結びつけて語った記事や論文は無かった。議論は、図書館活動の実践的視点から書かれたもので、教育哲学や進歩主義教育運動の動きなどとの関連づけがされたものは皆無と言ってよいと思われた。ドルリー(Judy Drury)は、進歩主義教育運動の時期(1900年から1959年としている)の教育に関する記事で学校図書館が「学校の心臓」であるというリップサービスはされていても、実際にはそれほど興味をもたれていたようには見えないと述べているが(Drury, Judy. “School Libraries and the Progressive Movement: A Study of the Role of the Librarian in Implementing Progressive Education (1900-1957),” *The Emerging School Library Media Center: Historical Issues and Perspectives*. Kathy H. Latrobe. Englewood, CO: Libraries Unlimited, 1998, p.17-37, p.19), 本研究の雑誌記事の分析においても同様のことが明らかになったと考えられた。さらに言えば、学校図書館の誕生と当時の教育学の動向との関連を、記録資料の記述によって直接的に実証することは困難であることがうかがわれた。また、そうした記録と記述が決定的に欠如していることは、学校図書館の理論的成立を、19世紀末から20世紀初頭の学校図書館史の初期に求めることはできない可能性を示唆していると考えられた。むしろ初期には、ライブラリアンの専門職確立の運動とその配置の広まり、そして彼らによる学校図書館運営の実践が、それらにまつわる言説はたまた理論に先行していたのではないだろうか。
- 20世紀前半期に米国で出版された、学校図書館の教育活動として「instruction in the use of books and libraries」を主に扱った図書の収集・整理・分析を行ったところ、その教育活動の考えの発展が、学校図書館固有の教育領域の確保にあたっており、それは初期の学校図書館史においてひとつの重大な理論的展開と言えるものであったと考えられた。それらの図書のほとんどは1910年代半ばか

ら 1930 年代半ばにかけて発行されていた。20 世紀はじめから 1920 年代に入るころまでに、まずは師範学校における、その指導の重要性が認識されていた。これには、児童・生徒に教えるために学んでおく；学校図書館を担当する (teacher librarian の役割を担う) ために学んでおく、という二重の意味がもたされていたようである。続いて 1920 年代から 1930 年代にかけての間に、児童・生徒に対するその指導がより具体的な形で考えられるようになり、実践も普及した。それについての図書が次々と出され、記述が重ねられて具体化していくさまには、米国の学校図書館の専門的な実践に対する認知の広まりとその理論的成立において、「instruction in the use of books and libraries」が重要な位置を占めていることが示唆されていた。この時期を初期学校図書館史の最初の展開期として、もしくは学校図書館の理論的成立の重要な一歩として、今後より多角的にさらに検討する必要がある。特に、大学図書館における「instruction in the use of books and libraries」の理論と実践の発展からの影響、さらにはライブラリアンの専門職確立の動きとの関連に注目するべきであろう。

- M. デューイが 19 世紀末以降、アメリカ図書館協会 (American Library Association: ALA)、また NEA においても、学校図書館の重要性について熱心に語っていた。同氏の影響力と、同氏が特に強力なリーダーシップを発揮していた当時の米国の図書館界における学校図書館への関心を検討する必要性のあることが明らかになった。M. デューイを中心に進められていたライブラリアンの専門職の確立・拡大の運動というより大きな流れとの関連を問うことも、その検討にあたっては重要であろう。
- 1896 年に NEA には、M. デューイらの働きかけによって図書館部会が設立されている。NEA の年次大会記録中の図書館部会の記録は、当時の雑誌の記事中では最も情報量が多く、各種の長文の報告書がその頃、発表されていることから、同部会が活発であったことがわかる。その活動を整理することもまた、米国の初期の学校図書館史の解明において重要であると思われた。その後、1915 年に ALA に学校図書館部会 (Department of School Libraries) が設立された。それは、スクール・ライブラリアンがライブラリアンの専門職として確立していく基盤を作ったと推測される。そして、NEA 図書館部会から ALA 学校図書館部会に、学校図書

館の発展についてのイニシアチブの移譲が行われたと考えられるが、それがいかに行なわれ、またそれが米国の学校図書館史に与えた影響がいかなるものだったかの検討が、学校図書館誕生の構造を明らかにするために必要である。

- 占領期に日本に伝えられた学校図書館論では、学校図書館の教育活動として「instruction in the use of books and libraries」が主にあげられていたものの、日本ではその受容において、戦前からの連続性をもつ「読書指導」との関連が非明示的にはあるが問われ、その受容の初期から戦後をとおして、混乱と困難が生じていたと考えられる。米国の学校図書館史の初期から重要な一角を占めていた「instruction in the use of books and libraries」についての理解を深めることは、米国の近代学校図書館の文化的特質とその存在の米国教育史中の特有の位置を認めることにつながるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 中村百合子「<研究ノート>戦後初期の学校図書館について聞く (下)」『同志社図書館情報学』No. 21, 2010. 7 (掲載確定), 査読無.
- ② 吉田右子, 中村百合子「<特別インタビュー>図書館・メディア・教育: ライブラリアンシップの歴史から見えてくるもの」『同志社図書館学年報』No. 36, 2010. 7 (掲載確定), 査読無.
- ③ 中村百合子「<研究ノート>戦後初期の学校図書館について聞く (上)」『同志社図書館情報学』No. 20, 2009. 7, p. 107-179, 査読無.

[学会発表] (計 2 件)

- ① 中村百合子「19 世紀末から 20 世紀初頭の米国における学校図書館に関する議論の進展」日本図書館文化史研究会 2009 年度研究集会, 2009. 9. 14, 於・皇學館大学.
- ② 中村百合子「米国における“instruction in the use of books and libraries”の成立と普及」日本図書館情報学会第 56 回研究大会, 2008. 11. 16, 於・帝塚山大学.

[図書] (計 1 件)

- ① 中村百合子『占領下日本の学校図書館改革: アメリカの学校図書館の受容』慶應義塾大学出版会, 2009, 394p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

同志社大学・社会学部・講師

研究者番号：80411057

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し